



## 全日本同和会関東東北連合会研修大会

平成25年9月24日（火）日本橋公会堂（東京都中央区日本橋蛎殻町1-31-1）で、全日本同和会関東東北連合会主催の「平成25年度 全日本同和会関東東北連合会研修大会」が開催された。

本研修大会は今回で6回目となり、同和問題の完全な解決を図るために、連合会が連携を図り、お互いに情報交換を活発にし人権侵害やいじめ、差別事象の起こることがないよう、年一度研修大会を行い、1都1道11県から約400名の各県連の会員及び自治体職員が参加した。

研修大会は、桑原神奈川県連会長、開会の辞の後、大会会長挨拶では、山本埼玉県連合会長が、「東日本大震災の爪痕はあまりに大きく、震災により引き起こされた原発事故により、いわれのない差別やいじめを受けて苦しんでいる人が、後を絶たないと報告を受けている。同和問題に目を移しても、まだ課題は山積みのままで、特に心理的差別の解消は遅々として進んでおらず、同和問題解決のため教育・啓発を加速させなければならない。この研修会を実りのあるものにしたい。」という旨の挨拶を行ない、本研修大会の重要性を語った。

来賓祝辞として、松尾信悟全日本同和会会长、片山さつき参議院議員等から、「いじめや差別のない社会づくりに御尽力いただきたい。」とご祝辞をいただき、また、国会議員をはじめとして県知事、市長等多くの方々から、祝電も寄せられた。

講演会に移り、講師には、創作舞踏家・作家・フェミニストとして活躍をされている、花柳幻舟氏で、「人生、いつだってやり直しはできる 逃げたらあかん」という演題で講演が行なわれた。

幻舟氏は、2歳で舞台に立ち、旅役者の子であることを理由に、転校先の学校で教師や同級生からの差別やいじめにあい、保護者参観日などでは教師から「学校にこなくていい」と登校を禁じられ、いじめに耐えていたが、耐えられず小学校中退となる。しかし、幻舟氏は、差別と偏見の中で、逃げ出した「学校」から、我が半生を取り戻すべく、小学校中退で一気に大学に挑戦した。

幻舟氏は、このような、つらい過去の自分史を赤裸々に語りながら、「なにもしなければ、なにも変わらない」、「人生、いつだってやり直しができる」とご自身の体験をもとに切々と講演なされ、皆さんも差別偏見にくじけずこれからも強く生きていただきたいと締めくくった。

続いて、ディスカッションに移り、山本大会会長、田中群馬県連会長、竹本静岡県連会長、石戸全国女性部副部長がパネリストになり、各県連から質問が出された。

本県からも、堀内一男氏より「同和問題の現状及びこれからの問題解決に向けての働きかけ」についての質問がされ、各パネリストからは、多くの意見が出され、その意見を、オブザーバーの高橋編集局長が次のように取りまとめた。

現状としては「同和問題に対しての無関心層の増加」ということになり、問題解決のために無関心層を減らすことが肝要である。そのための働きかけとして、対話と協調を基調にしていくべきだ。

- 1 行政機関との更なる連携と協調 → 市民への信頼度、運動への裏付け
- 2 その他民間団体との協調 → 職域支部、NPO、連絡協議会等との連携と協働、他分野にも視野を向ける意識の改革
- 3 問題の分析や研究の充実と実践としての説明・説得・納得の力を養う → 関心度UPのために機関紙、研修会等への反映、能力の向上をお互いに図る。



古長福島県連会長のシナリオヒアリングで研修大会を閉じた。（※なお、大会の模様はYouTubeでご覧いただけます。）

国連NGO横浜国際人権センター・山梨プランチ

代表 横山 隆史（全日本同和会山梨県連合会会長）

〒400-0831 甲府市上町601-4 甲府市環境センター内 なでしこ工房1階 Tel 055-243-8563